トピック

第 52 回獣疫学会学術集会報告

「米国および日本における豚病（PRRS および PED）の最新事情」

杉浦勝明*

東京大学大学院農学生命科学研究科

52nd Congress of Veterinary Epidemiology : Current Situation of Swine Diseases (PRRS and PED) in USA and Japan

Katsuaki SUGIURA*

Graduate School of Agricultural and Life Sciences, the University of Tokyo

平成 30 年 2 月 21 日（水），東京大学中島董一郎記念ホール（東京大学弥生キャンパス内）において，第 52 回獣疫学会学術集会が開催された。

米国 Carthage 獣医サービスの養豚獣医師 Clayton Johnson から「米国における最近の PRRS および PED の疫学的状況」について，農林水産省動物衛生課の菊池栄作課長補佐から「日本における最近の PRRS および PED の状況および対策」について講演が行われた。

冒頭，杉浦会長のあいさつの後，佐々木幹事の座長の下で 2 人の講演と質疑・意見交換が行われた。

米国では PRRS および PED はいずれも養豚農家にとっては侵入し発生すると経済的被害が大きく，多くの養豚農家がバイオセキュリティやワクチン，フィードバックにより侵入防止・発生防止に努めている。海外疾病ではないので，政府はその防疫に関与していない。そこで，養豚獣医師により設立された豚衛生情報センター（SHIC）による

表 1 PRRS または PED ウイルスの排出・暴露状況に基づく養豚農家の分類

Herd category	Shedding status	Exposure status
Positive Unstable (I)	Positive	Positive
Positive Stable (II-A)	Uncertain	Positive
Positive Stable (II-B) (Undergoing Elimination)	Uncertain – undergoing elimination	Positive
Provisional Negative (III)	Negative	Positive
Negative (IV)	Negative	Negative

連絡先：杉浦勝明*

東京大学大学院農学生命科学研究科
 農学国際専攻国際動物資源科学研究室
 〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1
 Tel : 03-5841-5383 ; Fax : 03-5841-5191
 E-mail : aksugiur@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

写真 1 学術集会の関係者ら
左から 菊池先生、杉浦会長、Johnson 先生、佐々木先生
(座長)

自主的なモニタリングによりウイルスの活動状況を把握し、これらの疾病による被害防止に役立っている。このモニタリングでは養豚農家はウイルスの活動状況により 5 段階 (PRRS) または 4 段階 (PED) に分けられる (図 1)。各農家の状況の評価結果は、獣医師を通じて SHIC のデータベースに集約され、分析後、獣医師・農家に還元される。

一方、日本では農水省主導の下、毎年各県 30 農場を設定し、各農場当たり 11 頭を抽出し、PRRS ウイルスに対する抗体保有状況をモニタリングしている。また、家畜防疫対策要綱として本疾病の防疫措置を定めているが、症状が多様で、完全な洗浄・消毒が難しいことなどから、農場清浄化は困難を伴う。PED についても 2013~14 年の流行後、発生は比較的収まっているが、PRRS 同様防疫はバイオセキュリティとワクチン接種を中心とする、完全な清浄化が難しい疾病である。

両講演の後、両国の PRRS および PED に対する防疫政策の比較論など活発な議論が行われ、成功裏に終了した。